

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗 (1階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和2年6月30日	評価結果市町村受理日	令和2年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2294201575-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年各階にてお料理の方には、力を入れています。去年は地域の方々のご協力があり施設のお祭りができました。ご家族様利用者様がとても喜ばれていました。施設内の畑は今年も力を入れています。今年も、コロナウイルス感染があり、利用者様、ご家族様には淋しい思いをさせてしまっている中で、何が出来るか。ご家族様にはお写真と施設でのご様子のお手紙を細目に送らせて頂いてま

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でお出かけ&外食ができない利用者の気持ちをおもんばかり、沼津の深海プリンや浜松の治一郎、神戸牛のハンバーグなど、職員間では「ご当地」と呼ぶ「お取り寄せグルメ」イベントが企画され、産地の謂れを模造紙に書き出して職員がスピーチすることでレクリエーションの場としても昇華しています。平均介護度2.3ということもあって、畑の草むしりも生活リハビリトリフレッシュに一役かい、昨年は西瓜がうまく実ったので今年はバージョンアップして種無しすいかに挑戦してあります。梅ジュースをつくる日もあり、洗濯物干し、料理、新聞折、食器拭きに励む一方で歌唱やクラフトにも親しみ、本来のグループホームの暮らしがある事業所

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目で見える所に掲示し、職員間で共有できるようにしている。 経営理念と共に月間目標をたてている。 今年は、去年の目標を確かなものにできるように努力をしている。	理念に基づいて統一した目標を立て、毎月の職員会議で振り返りをおこなっています。実践ができていない人、いらない人とまだまだ凸凹があるものの、できていないときはメンタルの低下と絡んでいることが大半のため、個人面談につなげることで早めのフォローに突っ込んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナウイルス感染予防にて、できていないが、外部の方に来所して頂き交流をもてるようにしている。目で楽しんで頂けるようにしている。	防災訓練のときに座る場所が欲しくて本社に依頼して導入したベンチは、地域の皆さんから「もっとあるといいのにね」と声が入り、2基追加されています。コロナ禍となる前には犬の散歩で休憩する人などで賑わい、利用者と談笑する姿もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウイルス感染予防にてできていない現状。以前は地域の方々関わりを持ち、伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナウイルス感染予防にてできていない現状。一部の地域の方に協力を得て意見交換を必ず行っている。以前は開催し取組等の報告し、意見を活用し、サービス向上に向け行っている。	集まる方法での運営推進会議は中断しています。紙ベースや電話で情報交換をおこない、その結果を議事録にまとめており、回数を重ねています。議事録からは「むしろ多様な意見、質問があがっている」ようにも見え、落ち着いてできる書簡交換のメリットもあるように映ります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状感染にて難しい所もあるが、協力を仰ぎ連携を取れるように行っている。	コロナにおける運営推進会議の対応については通知が市役所からいち早く届いており、細かな不明点はこちらから電話で確認することで詳らかにしています。以前に比べて窓口訪問は減っていますが、郵送や電話、FAXでやりとりを欠かさないよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会など開催し、職員会議でも話し合いをし、拘束が無いように取り組んでいる。職員より意見が出た場合もそれを議題にし話し合いをしている。	「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を3ヶ月に1度開催しており、年2回の研修及び本件における新入社員研修も滞りなく実施しています。自分のペースにもっていいこうとする職員には、都度「急がなくていいですよ」と管理者が声をかけて、気づきを促しています。	減算対象の書類についてはおおむね揃っていますが、一部不備については書類整備を急ぎおこなうことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し、職員間での共有を心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、現状できていない。これから学んでいき活用できるようにしていきたい。管理者、ケアマネは、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長より、契約前、契約時に説明している。不明な点があればその都度対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と連絡を取り、お話する機会を設けている。それに対し職員間で共有し、実践できるようにしている。	利用者個々に体重、身長、往診等の報告書を作成するほか、生活の場面を切り取り、全員の笑顔が掲載された「ジョイ上足洗だより」も届けています。家族アンケートには事業所に信頼を寄せる様子が滲んでいて、家族との良好な関係が視えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人1人と話をする場を設けて意見を聞けるようにしている。職員会議の機会にて反映できるようにしている。	職員会議は「総意」を旨とし、職員一人ひとりに意見を一つ挙げてもらっています。記録も個々にとり、議事録の係にメモを渡して、それらを集約という方法をとって、また議事録作成も輪番にすることで、集中力や意識の維持、自立性が養われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に今何をすべきか把握をし目標をたて目標に向かってできるように見直ししている。個別面談を行い意識を持つように促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に行くように促し、実践できるように取り組んでいる。現在は会社内でできるように工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行えていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、ご本人様にあった生活環境を作れるように努めている。情報と実際に違う所があればご家族様やご本人様とコミュニケーションをはかり信頼関係を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたり不安な事、心配な事を把握をし、連絡をとり安心して頂けるように努めていることを報告するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の事前のお話し、ご本人様とコミュニケーション後サービスを利用できるように努めている。福祉用具などの支援提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごすにあたり、ご本人様のできる事、して頂ける事を探し一緒に行えるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡をこまめに取り、話し合い、協力して頂けるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内に友人が面会に来られたり、外出ができるように努めている。現状コロナウイルス感染予防にて行えていない。電話等の対応は行っている。	コロナで家族には面会を控えてもらっており、2階の窓からロミオとジュリエットのように手を振る姿もありますが、電話で会話をもったり、事業所の写真入り通信で近況を確認しあえています。またストレス回避のため、1名のみ理美容を再開した例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の合う利用者様同士を近くにし、話題提供できるように職員が間に入り対応をしている。テレビを見たい方などは近くに座席を配置している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご家族様と話し合い相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を聞き取り組めるよう努めている。困難の場合は、ご家族様にも相談の上、ご本人様にとって何が一番よいか検討し、把握できるように努め支援している。	コロナ禍でお出かけ&外食ができない利用者の気持ちをおもんばかり、沼津の深海プリンや神戸牛のハンバーグなど、職員間では「ご当地」と呼ぶ「お取り寄せグルメ」イベントが導入されています。訪問当日もハリのある歌声が流れていて、利用者の満足げな気持ちを感じられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方、ご本人様が行ってきた事を把握し行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の毎日の生活を把握し、ストレスの無いように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様に快適に暮らして頂けるように職員で話し合いをし、モニタリングを行い計画を作成している。	手を挙げる家族には席を設けていますが、サービス担当者会議に事業所から特段声掛けはこなっていません。都度変化があることから介護計画書のサービス内容は大局として、都度介護支援専門員が「申し送りノート」で詳細な支援を示すという方法をとっています。	職員の頑張りを理解してもらえる機会でもあるため、サービス担当者会議に家族を誘えたら、なおよいと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや、口頭での申し送りを必ず行い職員間で分からない事が無いように情報共有している。職員会議での情報共有。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話し合いを行い、その時々生まれるニーズに対してできる事の支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が今まで行ってきた事を把握し、一緒にお買い物に行ったり、庭の整理など意向にそえるように努めている。困難な場合はご家族様の意向なども聞き意向にそえるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に2回往診を行っている。24時間体制往診に切り替える。受診等が必要な場合は、ご家族様に連絡をとり、依頼する。こちらで対応をすることもある。	協力医は月2回、訪問診療で訪れています。親身に話を聞いてくれ、また24時間対応くださる医師が今年に入って新たな協力医として加わっており、現在は利用者も慣れ、また家族には手紙や電話で説明し、快諾してもらえています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、往診ナースとの連携をとり、ご本人様の情報を的確に伝え、相談、受診、往診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療ができるようにADLを把握し、早期に退院できるようにご家族様、病院との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長より、重度化した場合終末期について、ご家族様へ契約時に説明して頂いている。早い段階にて、往診ドクターと相談の上、ご家族様と医療、施設側で話し合いをし、支援に取り組んでいる。	看取りはおこなわないことは、契約時に説明していますので、重度化に向かいつつあると判断された場合は、家族と今後のことについて話し合う機会を設け、移設について早めの備えに取り組んでいます。医療的な解説や助言が必要であれば協力医にも同席をお願いしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間コールセンターにてドクターの指示を仰ぎ、往診なのか、緊急対応なのかで指示をもらい対応を行う。緊急搬送に対しては、施設長・主任が対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の防災訓練に参加など、協力して貰えるように運営推進会議などの議題にあげている。町内の近隣の許可を頂く。施設内の防災訓練も行っている。令和2年町内防災はコロナウイルス感染予防にて未定。	防災訓練2回の内1回は夜間想定で実施するほか、町内の防災訓練でも玄関ベンチが待機場所として活躍を見せ、日ごろはご近所の皆さんとの井戸端会議の場となっています。また冬の上着、夏の帽子等、倉庫にある避難用品の備蓄は主には家族の寄付で賄われています。	家族の安心につなげるためにも171(災害用伝言ダイヤル)を試みることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の人格、人柄を尊重し、プライバシーの確保を行っている。職員が適さない声掛けを行っている時は、その場で説明している。	ノックや「～さん」呼びといった基本的なことは守られています。投薬のことがあって食事の開始時間は一律としていますが、就寝時間はまちまちで、テレビやおしゃべりと思いつきの時間を過ごしています。丁寧語で記載された介護記録からも職員の日ごろの姿勢が伝わります。	人の感じ方、考え方は千差万別のため、家族の関わりについても違いを意識して個別対応ができるようになることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように環境作りに努めている。 ご本人様の希望を聞けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになってしまい、優先順位が違ってしまうことがあります。職員間で声掛けを行うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	メイクをされる利用者様がおれば、声掛けを行い共に行いメイクをされる。髪型を気にされる利用者様などは、セットなど行う。髪の毛を染めたい方は理美容にて対応。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見たり共に行って楽しんで頂けるように、工夫をしている。バイキングを行ってみたり、出前を頼んだり下ごしらえを手伝って頂いたりして工夫している。	朝、昼は手作りで、夕食は搬入された湯煎調理に1品足すという方法をとっています。「目で愉しむ」ことを旨に、盛り付けにも気配りし、百歳を越える利用者が皆と一緒に食事ができていることを喜びとして、味噌汁に野菜を多種類使うといったことにも配慮がみられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に声掛けを行ったり、その人の食べる量に応じて支援している。水分の少ない人は促し飲んで頂く。またゼリーなどの提供をしている。往診ドクター・薬剤師にもアドバイスも頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は、声掛けを行う。介助、入れ歯のある方は職員一部介助にて行っている。一部の利用者様歯科往診受けられている。指導頂く。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方は、自ら行かれる。食前、食後の声掛けも行いその中で排泄パターンを考え、自立に向け支援している。	本人が嫌がらない限り毎朝陰部洗浄をおこない、感染症への取組みが綿密です。103歳ながらも「トイレで～」と希望する本人に応え、日中は布パンで過ごしてもらっています。「失敗したら死にたい」との気骨に職員の排泄チェック表管理には一層力が入ります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化のいい食事の提供。水分量に気を配り、運動なども行っている。それ以外では往診にて薬の処方をして頂きご本人様の不快感をなくせるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴。現在こちらの対応になっているが、その都度ご本人様の意見も聞き行っている。入浴剤なども使用。まだ1回だか地域の方からレモン種類のものを頂き使用し入浴も試している。	清潔の日安を「週2回」と決めていますか、入浴時間は希望に応じており、職員のシフト上は日中が安全であるものの夕方から入るという人もいます。拒否にはコミュニケーションを深め、丹念に信頼を築いてスムーズとなった例もあり、またレモン風呂などのかわり湯にもチャレンジしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、臥床時間を設けている。夜間帯はご本人様のこだわりを把握し安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイル、往診報告ファイルを作り全員が見れるようにしている。往診報告については、職員のサインを必ず打つように指示対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、本人の張り合いのある物を探し、職員と一緒にを行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在ではできていないが、ご家族様にもご協力頂き行っている。施設でも外出・遠出ができるように支援している。現在ではできていない。	昨年度本件において目標とした「外出表」の作成は達成していますが、コロナが影響して近隣散歩に留まっています。職員の発案で幾度となく「お取り寄せグルメ会」が催され、産地の謂れを職員がスピーチすることでつかの間の旅気分を味わうことができています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っている。ご本人様から必要な物があればご家族様にも確認をとり使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と電話でお話をしたり、手紙等頂いた物に対しては、ご本人様に渡してできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節に応じた飾りつけを行っている。日付けが分かるようにカレンダーを見やすい所に提示している。各居室にもカレンダーを提示している。	「清掃の回数を増やす」「次亜水を噴霧」「布団を日光に当てる」「換気をこまめにする」といったコロナ対策をおこない、共用空間の清潔に努めています。建物のオーナーが「回覧板は一時中止になったよ」といった情報とともに育てた生花を届けてくださる日もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、お話をされたり、職員が入り工夫をしている。利用者様の行きたい所に応じて対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のこだわりを把握したり、使い慣れたタンス等を持って来て頂いたりしている。ご家族様のアルバムも置いたりなど工夫をしている。	テレビや仏壇、化粧台などを持ち込む人、大きな犬のぬいぐるみを置く人もいて、危険物以外であれば何でも持ち込んでかまわないとしますが、症状が進んで物を紐で縛り上げる等リスクが高まると、居室から出してもらおうこともあって、ほとんど何も無い部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく車いすの方でも動きやすい環境にしている。通路には自立の方の歩行に妨げになる物は置かないように工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗 (2階ユニット)		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和2年6月30日	評価結果市町村受理日	令和2年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2294201575-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年各階にてお料理の方には、力を入れています。去年は地域の方々のご協力があり施設のお祭ができました。ご家族様利用者様がとても喜ばれていました。施設内の畑は今年も力を入れています。今年も、コロナウイルス感染があり、利用者様、ご家族様には淋しい思いをさせてしまっている中で、何が出来るか。ご家族様にはお写真と施設でのご様子のお手紙を細目に送らせて頂いてま

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でお出かけ&外食ができない利用者の気持ちをおもんばかり、沼津の深海プリンや浜松の治一郎、神戸牛のハンバーグなど、職員間では「ご当地」と呼ぶ「お取り寄せグルメ」イベントが企画され、産地の謂れを模造紙に書き出して職員がスピーチすることでレクリエーションの場としても昇華しています。平均介護度2.3ということもあって、畑の草むしりも生活リハビリとリフレッシュに一役かい、昨年は西瓜がうまく実ったので今年はバージョンアップして種無しすいかに挑戦してあります。梅ジュースをつくる日もあり、洗濯物干し、料理、新聞折、食器拭きに励む一方で歌唱やクラフトにも親しみ、本来のグループホームの暮らしがある事業所

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に対して毎日は意識できていない。利用者様対応に追われ、そこは別物になっている為、改善できるようにする。月間目標をたてている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ある一定の制限内にて交流はしている。		
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談できる範囲内にて支援をしている。今年の一部の地域の方から意見を聞き今後の活動の中に取り入れて活動をしていく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策内にお応じて必要である話し合いは中心人物とやりとり、報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡などし、相談実行している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内会議にて研修を行い、個々への指導も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の研修にて職員1人1人の考えなどを資料に残している。個々の指導も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の例がある為、その対応に対して上司より指導を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者が行った内容の報告を受け、納得している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、書類を作成し、郵送にてお知らせをし、意見については電話対応などしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回面談を行い意見を聞く。又会議内容を濃厚にし職員の意見は大切にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	注意や指導は個々の職員に行い各自の希望にそえる事を努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は外部への研修参加ができない為内部での指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流ができない状況であるものの個々にネットなどで勉強はしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し送りなどでの気づきなどを説明をする。不穏になる理由など職員側の対応にならないように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常日頃から、ご家族様と連絡をとり、コミュニケーションを測っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階の面談などで、代表者のご家族様からの要望などを聞き、それに応じた対応に努めている。その後のサービスについても細目に説明・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言っている事・言っていない事の決め事は守り日常を共に送れるように築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの情報は参考になる為、困った時は相談をしながら一步步、家族との関係を築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにて、できないものの手紙や、贈り物を受け取りご本人様へ渡し説明をしている。電話などのやり取りもできるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努力はしているが、どうしても何年経ってもコミュニケーションが苦手の利用者様に対してもイベントにより実践に支援できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の利用者様が多い為関係を大切に続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団で行動しなくてはならない時と、自由に一人になりたい時は、利用者様自身の安全を守れるように検討し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設内は、ご家族様にセッティングして頂いたので元の暮らしに近い状況だと思われる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日誌、ケアスケジュール表、その他の記入には厳しく指導を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと担当者会議を行い、作成できている。ご家族様にも説明を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常日頃から、職員が記入した記録をケアマネが確認をしながら話し合いをしている。職員間で共有ができるように実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年は感染予防の為、できていな事の方が多いが、ご家族様や利用者様の思いに添えるように柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は消毒やマスクなどにて可能な限りの支援はしているが利用者様のストレスはあると思われる。行事等の工夫を楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診についてできかねない部分があるものの、往診対応はドクターから適切な指導を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護への要望や、気づきを報告処置をして頂き往診ドクターへそのまま報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表者がその都度対応をし、職員にも経過や結果についての対応の指導が必ずある。往診ドクターより話ができれば、再度ご家族様と話す場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で代表者からご家族様への説明は行われている。ドクターよりの報告などにて早い段階で再度ご家族様に説明し、方針など決め支援できるように取り組むこともある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	完全ではないが研修にて指導を行い事故発生時の職員同士の連携は取れている。緊急搬送は施設長・主任にて対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練などを行い、実践し去年行った地域との話し合いを参考に挨拶に回っている。今年の地域の方からのアドバイスにて長イブを増やす。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けているがトイレ使用時など、ノックを忘れる職員がいる為指導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定まで待てない職員もいるので、傾聴、思いありを持つようにその場で伝えたり、会議などで話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に全て添えない場合が多いが、全体が一致になる努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容などでは意見や希望を優先し、メイクしたい女性なども優先している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備については、限りがあるものの食べたい物希望を聞き軽作業食器拭きなどは協力頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日ケアスケジュール表を確認し医師への相談にて必要ならば栄養バランス飲料の提供を行っている。職員間でも食事を工夫をし取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さ、誤嚥性肺炎の危険を説明を嚥口腔内の洗浄に心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1回ずつ自尿、自便になるように長く座って頂くなど工夫をしている。排泄表を確認し早めの誘導などを行っている。失禁対応になる事もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を上手く摂取できない方なども含め、ココア・ゼリー・食物繊維の多い食品など力を入れ提供。ドクターの相談を行いアドバイスを頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望には添えてできていないが、入浴の拒否が強い方については、現状も困っている事もあるが工夫をし改善できている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	転倒リスクを考え薬にはなるべく頼らず日中の関わりに注目しながら工夫をしている。夜間電気や室温にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての理解はできていないが、新しく処方される薬については、ドクター・薬剤師に確認を説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年は、施設内・居室内のみになってしまっているが、過去の趣味などに近い事をできるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はほとんどできていないが、施設内の畑なので楽しんで頂けるように工夫をしている。会議での案にてご当地物取り寄せのイベントを実践中。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の金庫にて管理している。と利用者様に説明を行っている。個人で持たれている場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただく様に施設内の畑の食べ物、大家様から頂いたお花などを飾り工夫をしている。新聞なども活用し支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室温調整や、テレビのボリュームなど気をつけレクリエーションを行い日々努力をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時点でご家族と相談しながら行っている。ご本人様の意向もご家族様に確認をとりながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不便の部分は、会社などに相談をし、ケガや事故のないように心がけている。		